東京学芸大学附属高等学校紀要　50　pp.53～70, 2012

音読・暗唱が生み出す英語で表現できる力（質と量）の育成とその先

Developing Learners' Expressive Powers through Reading Aloud and Memorizing and From Now Onward
— Both Quantitatively and Qualitatively —［2010 ～ 2012 の 3 年間の取り組み］

英語科　林　正太

<要旨>
一斉授業の中で、また、普通教育というスタンスの中で、手段として使える英語力の育成の継続的な指導は何であろうか。言語には音声があり、それを耳にし、口にしてみるという語学学習の鉄則に、どの段階でも立ち返える重要性を生徒に実践させた。さらに、「その先」にあるものに、いかに近づけていけるかを模索した。「教師のしかけ」を3年間のスパンの中に位置づけた実践報告である。

<キーワード>　音　音読と暗唱　英語のかたまり　つなぎの言葉　論の展開　知的好奇心　しかけ　生徒による授業

3年間の指導目標

1年目：英語のかたまりを意識させる音読と暗唱からサマリーライティングへ（口頭→筆記）
2年目：音読と暗唱の継続指導と、つなぎの語を用いたパラグラフを意識させたサマリーライティングへ（口頭→筆記）
3年目：教科書本文とその原典を読ませた後、知的好奇心に見合った生徒による授業展開へ

ここ数年、英語科のスタッフの感触で、オーラルコミュニケーションの授業が数年前に比べて、活気があるという感想が一部に出ている。後に示す附属世田谷中学校出身（以下、世中と記す）の生徒の所感文が、この感触が単なる感覚的なものではないことを裏付けている。

2009年度頃より、我々、英語科のスタッフの会話として「言葉をつなぐようになった」「暗記したままではなく、易しい表現で言い換えることが出来ている」「授業後にALTにコメントや感想を求めに行っている」「タームの最後に行うOne Minute Speechでは、人前で話すことが慣れている」などが挙げられ出した。これは、感覚的なものなのか、コミュニケーション重視の英語教育を中学生が受けてきた影響なのか、明らかに、英語圏からの帰国生と世中出身生徒の要素の大きさを感じさせる。目立つ生徒をチェックして資料から出身中学校を調べると、確かに世中出身者が多い。一般の公立中学校や帰国生が、世中出身生徒に「帰国？」と尋ねる場面も、耳にしてきた。

林は、偶然にも、世中で633制の英語教育（1年時週6時間、2、3年時週3時間）を最初に受けてきた生徒（本校53期）と、この制度の最後となった生徒（本校57期）を担当した。633制の英語教育を受けてきた生徒は、英語学習の各分野において積極的な取り組みを示していること、英語嫌いが出ていないこと、予習が習慣化されているのが、この制度の大きな功績であろう。これらの傾向は、以下に記すアンケート結果から読み取ることができる。

ここで、世中出身生徒へのアンケートとその回答を記載する。

アンケート項目　　2010年9月実施
（対象：2クラス21人）

附属世田谷中学校で、君たちは633制の英語教育を受けてきました。附属高校の英語の授業のどういうところに、学んできたことが役に立っていると思っていますか。

アンケート回答　　原文のまま
［　　］内は林の所感である。

・633制に直接関係しているかどうかは分かりませんが、特に、中学校で学習してきたことが役に立ったと思ったのは、Lesson Test（英語Ⅰのまとめのテスト）のときです。「そのLessonで学んだことを、自分の言葉で隣りの人に話してから、その内容を書きなさい」というパターンが多いと思いますが、（多いですよね？）教科書はもちろん、サマリーなどとも違った別の表現が浮かんできて、分量はともかくとりあえずできるんです。これは、中学の授業で本文に関する絵を用いて

発表する機会が非常に多く、さらに、「自分の言葉で」という条件がついていた、などといったことに起因すると思いますね。
他には、教科書を読んで、質問された時に、教科書の該当箇所をそのまま読むのではなく、ある程度整理された答え方ができたときですかね。中２の時は、２週間に１回はALTと１対１で話す機会がありましたから。それから、普段の授業ではフルセンテンスを意識していました。（会話ではないので）まぁ、大まかには、こういったところでしょうか。一貫して言えるのは世田谷中の授業は、机と黒板だけでは学ぶことのできない英語との触れ合う貴重な場であったということです。今後も続けていってほしいです。
[LESSON TESTで、その内容をパートナーに自分の言葉を交えながら、ゆっくりと話すことができる生徒]

・１年生の時に、毎日英語を学び、ラジオ講座をきくことを義務づけられていたので、その１年間の間で読む力、書く力、聞く力をのばすことができました。また、英文日記を書くことによって自分で考える力も伸びたと思います。今の附属高校の授業での音読練習に役立っていると思います。
[音読では、sense groupを捉えている生徒]

・附中での英語の授業はかなり回数が多かったので、附高での英語の授業の回数が少ないと感じるほどです。（中１では６時間、高１では５時間）また、日記を書いたのも、その時はものすごく面倒くさかったけど、今考えると英文を作る感覚がかなり身についたと思います。スピーチコンテストも自分にとって大きなプラスになったと思います。なぜなら自分で考えてきた原稿を皆の前で発表するのに抵抗があまりないのは、このスピーチコンテストのおかげだとおもうからです
[高校のオーラルコミュニケーションのOne Minute Speechで、絵を使って堂々とスピーチを行った生徒]

・語学は、年齢が若いほど頭に入りやすく、また基礎がしっかりとわかっていないとその先が理解できないので、１年生のときに授業数が多いのは良いと思います。附属高校の実力テストやAdvanced Readingsでは、大量の英文を読むために、英語を嫌がらずに自然と受け入れることが必要なので、基本の段階で英語に慣れることは役に立っていると思います。
[１年生９月の第１回実力テストで、英語圏からの帰国生と同程度の得点を取った生徒]

・１年生の間は、英語が６時間あったので毎日英語にふれる時間があった。そのため、英語アレルギーをおこさず楽しく、英語を学ぶことができた。とてもたくさんある附属高校の課題についていけるのも、英語を初期段階で好きになれたからだと思う。
[音読も暗唱も大きな声で行っている、予習は必ずやってくる生徒]

・633制の英語教育では、中学校１年生での英語教育が多いことになる。英語導入時で英語の授業を多く行ったことで英語の基礎は確立されたと思う。また、早い時期からのリスニング及びALTの教師とのコミュニケーションがなされてきた。そして、中学校２年、３年となるごとにより高度になっていった。さて、それらの教育が附属高校での英語で一番役立っているのはOCの授業であると感じる。ネイティブの先生とのやりとりは、抵抗なくできる。何より、前に立ってのプレゼンテーション（？）や説明で世田谷の生徒は力を発揮していると思う。１分程度のスピーチもこれらは中学１年の時から学んできたのだ。
中学校の授業では、教科書の内容をさらに自分の言葉で、前に出て説明したりALTの先生に伝えたりした。このことは、OC時ではもちろん、英語Ｒ［英語Ｉ］においての別の表現法（いわゆるパラフレーズ等）と似ているなと感じた。中学校では、633制の英語教育で主に「伝える」能力の面で役に立っている。
[音読テストと暗唱では、クラスメートの注目を浴びている。LESSON TESTでは、自分の言葉で内容を的確に伝えている。ADVANCED READINGSの和訳では、状況を押えて意訳が感覚ではなく、語法、構文をおさえながら行える生徒]

・１年生の時に、週６時間も英語の授業があったので、“１年の間に沢山やっとかなきゃ”感がり、２,３年の時は週３時間しかなかったので、“宿題や家庭学習で補わなきゃ”感があるので、今、英語はとても懸命に取り組んでいる。附高の英語の授業は予習が前提なので、633の３の部分がとても役に立っていて、予習をしてくる力がついていると思う。
[教科書本文を手書きでノートに写し、全訳を予習としてやっている生徒]

１年時の実践　　（担当　２クラス）

英語Ｉの授業（３単位）では、教科書（ELEMENT English Course Ｉ　啓林館）を使用している。内容理解（Listening → Summary → Ｑ＆Ａ）の後の活動として、Sense Groupを意識させた音読（Slash Reading）をさせた。その後、英語のまま内容を確認させる目的

で、[PARAPHRASE] を読ませている。下記に示す [SUMMARY] は、Listening / Reading Comprehension や Oral Introduction で生徒に提示した。まとめとして、そのレッスンで学習した内容の要約（各レッスン 750 語前後）を、パートナーに 2 分間で口頭で伝えてから、自分で発した英語を 7 分間で書かせる指導を行った。

以下に Lesson 7 で使用したハンドアウトを示した。紙面の関係上、Part 1 のみ記載した。

その後に、まとめとしてのレッスンテスト（その課の要約）の解答の 2 例（世中出身生徒）を記しておく。

Lesson 7　Facing the Lion

Joseph is a remarkable man.// Half the year / Joseph is a social studies teacher / at a school in the US.// The other half / he is a Maasai warrior / in northern Kenya.// He has a master's degree / from Harvard University.

[SUMMARY]

1 A lion story

In northern Kenya, the lion is a symbol of (　　) and (　　). If you kill a lion, everyone (　　) you. So to kill a lion is a (　　) of every warrior.

Joseph was at a cattle (　　) when he was about 14. In the middle of the night, this big sound (　　) him up. It was the sound of all the cows starting to (　) in every (　　). And that means a (　　) has appeared. Just then, one cow made a terrible (　　). A lion held the cow by the (　　).

教科書本文 [スラッシュ]

I'm going to tell you / a lion story.//

In northern Kenya, / the lion is a symbol / of bravery and pride.// If you kill a lion, / you are respected by everyone.// It is every warrior's dream / to kill a lion.// But at the time of this story, / when I was about 14, / I'd never come face to face / with a lion.//

I was at a cattle camp.// That evening, / after the cows got back from grazing, / we sat together around the fire, / sang songs, / and told stories.//

In the middle of the night, / I woke to this very big sound / – like rain, / but the sound was not rain / but all of the cows / starting to pee.// All of them, / in every direction.// And that is the sign of a lion.// They don't act that way / around any other animal.// Only the lion.// Right then, / a cow made a terrible sound, / and we knew / that the lion had it / by the throat.

[PARAPHRASE]

1 A lion story

I'm going to tell you a lion story.

In northern Kenya, the lion is a symbol of bravery and pride. If you kill a lion, everyone respects you. To kill a lion is a dream of every warrior. But at the time of this story, when I was about 14, I had never met a lion directly.

I was at a cattle camp. That evening, after the cows returned from eating grass, we sat together around the fire, sang songs, and told stories.

In the middle of the night, this big sound woke me up—the big sound was like rain but it was not. It was the sound of all the cows starting to pee. All of them were peeing in every direction. And that means a lion has appeared. They don't pee like that when any other animal is near them. They do so only when there is a lion near them. Just then, one cow made a terrible sound, and we knew that the lion held the cow by the throat.

[REVIEW TASK]

紙面の関係上、Part 1 のみ記載した。実物は行間をもっと取ってある。POINTS はオーラルの得点であり、パートナーが記入し、スクリプトに関しては、教師が添削を行う。

Les.7 Part 1

○ In northern Kenya,
○ If you kill a lion,
○ So to kill a lion is
○ Joseph was at
○ In the middle of the night,
○ It was the sound
○ And that means
○ Just then,
○ A lion

Class (　) No. (　) Name (　　)

POINTS (　　)

教科書本文のSlash Readingは、英語をかたまりのまま読んでいける力を育成するために行った。SummaryもParaphraseも、より沢山の英語と表現の多様性に触れさせたいという思いで使用した。生徒から引き出すためには、十分な［INTAKE］をさせないと［OUTPU］がなされないと考えるからである。ParaphraseはSummaryとともに、生徒の中に入っていく1時間当たりの英語の量としては、本校の生徒の能力として適切な分量であると判断している。

毎時間の復習として、上記の［REVIEW TASK］を使用して、暗唱してきた英語、或いは自分の言葉に言い換えた英語をパートナーに2分間で伝え、2組の生徒に発表させた後、そのスクリプトを3分間で書いて提出することにした。

レッスンテスト

Lesson 7　Facing the Lion

テーマ：Joseph and Lion

原文のまま　（世中出身生徒）

（生徒A）

When Joseph was 14 years old, he was at a cattle camp. When he was sleeping during the night, this big sound woke him up. It was a sound of cows peeing in every direction. This was a sign of the appearance of the lion. The next morning, Joseph's brother told him to tell others in other camps, since he could run very fast and also his brother didn't want to put him in danger. But he said no. So different boy went to tell. Joseph, his brother and old another boy surrounded the lion and held the spears. But the male lion wasn't scared and made big this sound. The ground shake. Finally people from other camps came. They were dressed in red and singing songs. The loins ran away.

When Joseph was 6 years old, there was a law that every family had to send one child to school, but not mother's old child. So Joseph's brother went, but he hated school and ran away on the second day. Because they still have to send another child to school, the authorities came. Although Joseph was only 6 years old, he said he was 8 years old and went to school, because you had to be 8 to go to school. In school, he and other kids were told to take off their traditional clothes and beads. But when he went ……

（生徒B）

Joseph lived in Kenya when he was a child. His people called Maasai because they speak the Maa language. The cow is very important in their life. They have cows instead of money. The cows gave them milk to drink, meat to eat, and hides to wear. To take care of them is very important and know someone who take good care of cows has worked hard.

When Joseph was a child, the government of Kenya passed a law that every family had to send one child to school. To go to school had to be more than eight. At that time Joseph was only six but she said that he was eight because his second brother hated school and older brother had to work at home.

Every Maasai's dream is to kill a lion. And it was also the dream of Joseph. But he couldn't ……

2分間で、課された内容をパートナーに口頭で伝えてから、7分間で、そのスクリプトを書くという時間枠であるために、上記の英語は途中で終わっている。時間をもっと与えれば終結できるはずである。一授業のひとこまの活動として行っているので、このように中途半端であるが、次への課題を意識していくことに期待したい。上記の例から、教科書本文、そのパラフレーズの文を読み、Summaryを暗唱していたために、その文自体がいくつか使われている。また、自分の表現で記されている文も見受けられる。

中学校と高校の学習の連続性と段差の幅を、世中出身の生徒の存在を起爆剤として、附属高校の英語の授業のあり方を意識せざるを得ないと実感した。生徒たちは、英語Ⅰの授業構成に緊張感を持って臨んでいた。知識の定着という「求同」の部分と、表現方法という「求異」のバランスを授業の要素として生かして行きたい。

2年時の実践　　（担当　2クラス）

平成23年度、英語Ⅱ（3単位）で1レッスン6時間構成で指導した。各レッスンのまとめとしては、昨年度の反省を加味して、各パートで学習したそのレッスンの内容（各レッスン800語前後で構成）のサマリーを、まず、7分間で書かせることにした。その用紙を回収した後、パートナーに2分間で口頭で伝え、聞き手のパートナーから発せられる1問の英語の質問に答える活動を互いに行わせた。

教科書本文のSlash Readingは、英語をかたまりのま

ま、読んでいける力を育成するために行ってきた。（2年次では、音読のテストに充てるレッスンのみに配布している。）Summary も Paraphrase も、より沢山の英語と表現の多様性に触れさせたいという願いで使用している。生徒から引き出すためには、十分な［INTAKE］を生徒にさせないと［OUTPUT］がなされないことを、生徒に再度、確認させた。

毎時間の復習として、上記の［REVIEW TASK］を使用して、暗唱してきた英語、或いは自分の言葉に言い換えた英語をパートナーに2分間で伝え、2組の生徒に発表させて、その後、そのスクリプトを3分間で書いて提出することにしている。この活動は、英語Ⅰとの学習の連続性を保障している。その積み重ねをレッスンテストで実施している。

レッスンテスト

Lesson 8 What Happened to a Local Village?

テ ー マ：Please write a summery of this title in 150 English words or less for 15 minutes.

If I had lived in the village, ～を最後のまとめとすること

（波線はスペリングミス）

（生徒A）原文のまま （世中出身）

The village called Eyam, which is in the UK, have had a terrible history. From 1665 to 1666, many people in Eyam died. What happened to that local village? The reason was the plague. If you get the plague, you will develop a high fever and you will die with red marks on your body. You can live only a few days. Then why did the plague come to the village? Once upon a time, there was a tailor in Eyam. One day the tailor got a percel from London. Rolls of cloth were inside. There were some fleas in the cloth. These fleas carried the plague from London. Fleas carried the plague, and black rats carried those plague-carrying fleas. So the plague spread in the village as soon as the tailar's assistant opened the parsel.

William Mopperson, who was the rector in Eyam, fought to this plague ploblems. He suggested some bold plans to villagers and tried to keep the plague away. His wife also helped him. If I had lived in the village, I couldn't do like William and his wife. They did a very ….

（生徒B）原文のまま （帰国生徒）

One day, a tailor in Eyam received a package from London including a damp cloth. After a few days later since he opened it, he developed a high fever and rashes all over his body and died. Soon , a few more people died in a similar way. This was the beginning of the plague spreading in Eyam. Although winter came and villagers thought that the plague-carrying fleas might die, they survived and many more people died. Then one day, the rector, William Mompesson came up with a brilliant plan. It was to quarantine the village to keep the plague from spreading, to cleanse the coins in vinegar when giving to people out side the village, and to have services in an open-air. Because of this idea, the plague subsided in October 1666. Although William was healthy and fine, his wife Cathrine unfortunately caught the plague and died. To remember her, people in Eyam put flowers on her grave on the last Sunday of august, also known as the "Plague Sunday" .

If I had lived in the village, I would have agreed to William's plan and cooperated with other villagers to put an end to the spreading of plague. Moreover , I would definetly put not only flowers but thank-you cards on Cathrine and William's grave every year.

(216 words)

（生徒C）原文のまま （一般中学校出身）

One day the taylor's assistant in Eyam received the parcel from London. Inside he found rolls of cloth with a disgusting swell. Actually, there were fleas in them which brought the plague. The assistant died soon, and were deaths followed. The rich left the village, but the poor had to stay.

The rector of the village decided to cut off the village from the outside. All the villagers agreed and they had to accept a different situation. The rector and his wife helped the villagers. They were busy visiting the sick to comfort them. One day, the rector's wife died of the plague. The plague was finally gone, and the villagers returned to their normal lives again.

Now , the last Sunday in August is called "Plague Sunday" . Flowers are put on the rector's wife's grave to thank them.

If I had lived in the village, I couldn't stand staying there and had run away from the village, even the

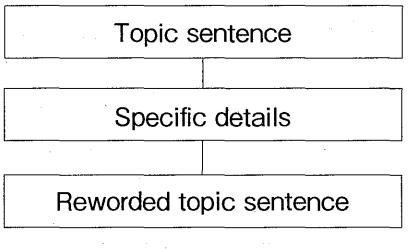
rector and other villagers tried to separate the village.. I respect the villagers and Monphessons who stayed at the village to help each other and people outside the village. (188 words)

このように、教科書やパラフレーズを通してインプットした英語を何も見ないで、制限時間内に指定された語数で、リプロダクションすることができるようになってきた。

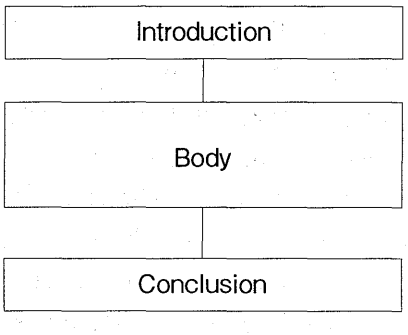
2クラス　86人の解答状況
100語以下：5人
101語～120語：25人
121語～140語：36人
141語以上：30人

さらに、生徒たちのアウトプットのレベルを上げるために、2年生の後期の段階で、次に示すパラグラフの構造の指導をおこなった。同時に、つなぎの言葉の指導もおこなった。

< One Paragraph Essay >



< Essay >



Transition words / Connectives

列挙
one… the other…
first… next… next　finally
first… second　third… last
firstly… secondly… thirdly… lastly (finally)

逆接
but, though, although, while, whereas, however, nevertheless, yet, notwithstanding, in spite of, despite this, conversely, on the contrary, contrary to this, on the other hand, unlike this

事例の強調
in fact, as a matter of fact, It should be noted that…

情報の追加
also, moreover, further, furthermore, in addition, besides, besides this, in addition to this, at the same time, as well, as well as this

類似
similarly, likewise, also, in a similar way, in a similar manner, in the same way

言い換え
in other words, that is

要約
in summary, to sum up, We can summarize that…

先を指す
as will be shown later

次に示す2つのレッスンテストからは、上記の論の構成とつなぎの言葉を指導した後の課題であるので、その点を意識させた。今まで通り、教科書、サマリー、パラフレーズの英文の音読や暗唱した英語表現をリプロダクションさせることを課題としているので、頭の中に蓄積してきた英語を教科書などを見ないで取り組ませたものである。43人で構成されている2クラスで1年間継続指導を行った。以下に示すレッスンテストの例は、1年時から2年間担当してきた生徒のものである。

教科書（ELEMENT　English Course 2　啓林館）
Lesson 9　Medicine from the Wild
テーマ：RAINFOREST and MEDECINE

200語程度の英文で、上記にタイトルに対して意見を書きなさい。その際、論の展開を意識した構成を心がけなさい。(制限時間20分)
(下線部はつなぎの語)
(生徒A) 原文のまま (世中出身)

Rainforest play very important roles and they are treasures for us human beings. Rainforest give us many different kinds of medicines. However, because of exploitation and deforestation, we are losing forests that we depend on for treating many of our diseases. So, as will be shown later, we the people have to make every effort to gain profits without destroying the rainforests.

For example, two medicines from the Madagascar periwinkle are effective against leukemia. In fact, they have increased the chances of survival for children with leukemia from 20 to 80 percent. In spite of this, the wild Madagascar periwinkle is almost extinct due to the loss of the rainforest. This is just one example. Also there are quite a large number of unknown plant chemicals that can take from rainforest plants, and scientists estimate that we are losing more than 137 species of plants every single day because of exploitation and deforestation.

As I have said, rainforests support us with giving many different kinds of medicines. However many of them are disappearing now. In the Amazon rainforest, people are looking for ways to reach economic goals and conservation goals at the same time. If we find a sustainable way to use the plants, this can be one of the solutions. (212 words)

(生徒B) 原文のまま (世中出身)

Rainforests have many important roles to play for us and is a treasure for us human beings. One of them is giving us various sorts of medicines. They are the gift from the rainforest.

We still depend on very much on plants for treating many of our diseases. Especially in developing countries, they rely on traditional medicines for their main health care. Plants have great importance in modern medical science too. For example, about 25 percent of medicine in the US are those with their main elements from plants. The plants are effective against cancer as well.

However, plants are in danger of disappearing. The Madagascar periwinkle is a good example. It's effective against leukemia and it has saved many children. But due to the loss most of the Madagascar rainforest, it is almost extinct. Many plants haven't been studied yet and it will be a serious thing if the remaining rainforests are gone. Many rainforests are now in danger of disappearing because of too much exploitation and deforestation.

On the other hand, there are some movements to save the rainforests. Scientists are working together with people in the Amazon rainforest. Indeed their knowledge about plants is the Amazon's new gold. If we use the rainforests resources well, it is thought to save the rainforest and the people. What is important is that we all have to make every effort to gain profits without destroying the rainforests. (238 words)

(生徒C) 原文のまま (一般中学校出身)

Rainforests are, as it were, treasure for us human beings. They have many important roles to play for us. So , we have to protect them.

The fact is that we still depend very much on plants for treating many of our diseases. In the U.S., about 25 percent of medicines are those with main elements from plants. About 120 prescription medicines in the world come from 90 species of plants. Furthermore, more than 3000 plants are effective against cancer.

Though rainforest occupy only two percent of the Earth's surface, they support over half of the wild plants and about 50 percent of the wild animals of the world. However, because of exploitation and deforestation, scientists estimate, we are losing more han 137 species of plants and animals every single day.

More than 99 percent of rainforest species have not been studied by scientists and there are quite a large number of unknown plant chemicals in rainforest plants. When the remaining rainforests are gone, useful plants and the possible cures for diseases will be lost.

Now, scientists are working side by side with people in the Amazon rainforest. Local people have a wealth

of knowledge about plants. It is essential to use local communities and people of the rainforest.

To find a real solution to saving the rainforest, we have to think of creating consumer demand and markets for sustainable rainforest products. It is very important for all the people to make every effort to gain profits without destroying the rainforests.

(250 words)

生徒の解答状況　(2クラス 86 人)
100語以下：3人
101語～120語：6人
121語～150語：17人
151語～180語：39人
180語～200語：7人
200語以上：16人

語数を含め、今回の課題である論の展開は、パラグラフライティングを意識していることが読み取れる。この解答の前にはパートナーに3分間で口頭で伝える活動を行っている。それが予備知識となって、書く量も増えてきている。内容の質もかなり上達が見受けられる。

Lesson 10　The Information Divide
テーマ：福島　智教授のハンディと情報格差について、120語～150語の英語で書きなさい。その際、論の展開を意識した構成を心がけなさい。(制限時間20分)
(下線部はつなぎの語)
(生徒 A) 原文のまま　(世中出身)

The "Information divide" is a problem that some people can't get information that others can. Today's "IT society," where information technology plays an important part, has given rise to this problem.

To our surprise, "information divide" is more connected with communication than information itself. This is because we need to be able to communicate first to get information. Therefore, the victims of the "information divide" are the people who don't have ways to communicate with others.

By the way, why information is so necessary to us? That's because information help us to get happiness. So if we can't communicate with others, then we can't get enough information and we may not be able to be happy.

Professor Fukushima says that people who are in special needs feel psychological barriers in communicating with others. To fill the world with happiness, we must eliminate the barriers. In short, we need to tear down the "information divide"

(158 words)

(生徒 B) 原文のまま　(一般中学校出身)

Professor Fukushima is deafblind. When he became blind and complete deaf, he felt as if the "real world" had vanished from him. The most painful part of being deaf blind was that he couldn't communicate with others. Though his experience, he thinks as below.

In today's "IT society" information technology makes a division among people, which is called the "information divide". Information is knowledge and communication is a transfer of that knowledge. It is not until there is communication that information itself has meaning. If we cannot read, write or have access to divices like computers and use then properly, we will not be able to gain the information.

In short, though we can obtain a huge amount of information through many devices, there is also the problem of the "information divide".

Professor Fukushima's mother discovered a new method called "finger Braille" ,which enables him to communicate with others. Then he regained his desire and courage to live. At last, he said like this: we all wish to live a spiritually rich life with others, so our most important task is to eliminate the psychological barriers and to tear down the "information divide" to achieve understanding of human beings. (199 words)

(生徒 C) 原文のまま　(一般中学校出身)

We cannot pursue our own happiness without knowledge. So we have to get rid of information barriers such as the "information divide".

Professor Satoshi Fukushima is blind and deaf. When he became deafblind at the age of 18, the communication, because communication is a transfer of information and information is knowledge. Though he was desperate at that time, he regained the will to live again thanks to his mother.

In addition Mr. Fukushima says that today's "IT society" makes a division among people. That is the "information divide". It can happen for various reasons. For example, we may not receive the information or misunderstand it or can't see its importance.

In conclusion, we all have rights to live a happy life. To achieve that, we need to tear down the "information divide". And we can create a better human society.

(150 words)

このレッスンでは、先に示したLesson 9よりも内容的に書きやすさを感じながら、生徒は課題に取り組んでいた。毎時間のサマリーの暗唱も定着し、パラフレーズで英語のまま教科書の内容を再確認する習慣もついているので、量を書く事に抵抗はあまり感じなくなっている生徒が多くなってきていると観察できる。つなぎの語およびパラグラフを意識して、教科書本文やパラフレーズの英文から自分の言葉を多く使うようになってきた点もあわせると、1年間（生徒によっては2年間）の指導が生きてきていると観察している。点検と評価においては、今まで通り理解しにくい部分のみ下線部を引き、書いてある量でA～Dで評価した。細かい分法的なミスは意識せず、書かせる意欲を起こさせる意図がある。

生徒の解答状況　(2クラス86人)
100語以下：2人
101語～120語：3人
121語～150語：52人
150語以上：29人

タイトルの「音読・暗唱が生み出す英語で表現できる力（質と量）の育成とその先」の前半部分の指導は、2年時で指導目標まで達させたものと考えた。そこで、その先、英語リーディングでの指導目標をどのように設定し、何をどのように指導していくかというタイトルの「その先」の段階に移った。

3年時になると、このような音読と暗唱を基に、サマリーを作成し、口頭と筆記によってのコミュニケーション活動指導ではなく、固まりのある英語を聞き取り、あるいは速読できる指導を強化していく授業スタイルをとっていく計画を立てた。そこで、課題としているのは、英文の内容を「より速く」、「より正確に」に加えて、「より深く」捉えさせるために、教科書本文の内容における生徒の知的好奇心（他の科目や分野で得た知識）への働きかけができないか、日本語で得ている知識と、英語の文章に書かれた内容レベルの隔たりの大きさをどのようにすれば縮めていけるのかを、ある「しかけ」と試みを実践する計画を立てた。

また、音声指導にかける時間も英語Ⅰ・Ⅱに比べるとかなり減ってしまうことになる。これは時間上、やむを得ないこととした。今後、自学学習として継続的に取り入れていけるように、言い続けてきた音読の効用を再度、生徒に意識づけた。それが以下に示すものである。

英語ⅠとⅡで重点的に行っている音読指導の意義について、生徒に指導している内容を、以下に記しておく。プリントして、生徒に配布したものである。

[音読の意義]

読む内容が聞いている人にわかるように読むことが基本です。音読の学習上の意義について確認します。

1．音読は読解・聴解と同様に、表現の論理を英語の論理のつながりのままに読み取る活動を伴っていますから、リーディングの能力を高めます。
2．音読は相手にわかるように読むことが基本ですからスピーキングの能力の養成に寄与します。
3．音読は文字と音声を結びつけた活動ですから、ライティングの能力の養成に寄与します。
4．音読では自分の声をモニターしながら読みますから、リスニングの能力に寄与します。
5．音読では聞かせる相手がよくわかるかどうか意識して読みますから、コミュニケーション能力の基礎を育成します。

このように、音読は学習の基本であり、どの段階でも有効な外国語学習の原則です。また、文体感覚を感得する学習としても極めて有効です。音読を何度も行うことによって、はじめて流暢な暗唱につながります。そして、次に繋がります。

3年時の実践　　(担当　2クラス)

平成24年度の取り組みとしては、教科書を扱う英語リーディングの授業では、教科書の各レッスンの理解をリスニングによる言語活動を原則として行った。その理解度を確認する方法としては、サマリーの完成、T-F Questions、文の完成、Q&Aで、センター試験を意識した授業構成を行っている。2学期に入り、パターン化し

た受験対策の授業への刺激として、教師が指名した生徒が、各レッスンで興味関心のある箇所を(英語を交えて、)関連する科目や分野に繋げて授業を行う「しかけ」を試みた。

1年間あるいは2年間に渡って、既述してきた音読、暗唱、パラフレーズのインプットから始まり、パートナーとのインタラクションとサマリーライティングに至る授業を受けてきた生徒が、どこまで授業を作れるのか、また、英語教師が通り一遍に行ってしまう内容のどこにもの足りなさを感じているのか、教科書レッスンのどんな箇所に、生徒が他の科目から得た関心を結びつけているのか、英語の授業では表面的になってしまいがちな内容を、どのように掘り下げて行くのかを探る事で、より内容を伴ったアウトプットへの大きな一助になると考えた。

生徒に授業を担当させる前に、一斉授業では、教師はいつも通り内容理解を中心とした授業を行った。教育実習生への指導と重なる要素も多分にあるが、授業の流れを確認する程度に留めた。本校の生徒の知的好奇心に見合ったルーティーンワークだけではない、生徒の目線と好奇心を主軸とした授業への模索の一方法である。この延長線上に、現在、本校が取り組んでいるSuper Science High School (SSH) との関連が、英語科としての役割の具現化に繋がるものがあると考えている。一言で言うならば,「学びのサイエンス」である。高い知的好奇心を持った生徒への方法、手段としての語学教育のあり方への取り組みが要求されている。

教科書 (ELEMENT　English Course Reading 啓林館)
Lesson 9　配当時間4の内の1時間分のハンドアウト

Lesson 9(1) パラグラフ [1] ～ [5]

A：Fill in the blanks to complete the summary.

[1]

Before I was (　　), my father told my mother that he would bring me up to be a (　　). When I was a very small child, he and I played with bathroom (　　) of different colors.

[2]

After a while, I would help set up the (　　) and pretty soon, we were setting up the tiles in a more (　　) way.

[3]

My father wanted to show me what (　　) are like. He started very early to tell me about the (　　) and how (　　) it is.

[4]

When I was a boy, my father used to sit me on his (　　) and read to me from the (　　) (　　).

[5]

Everything he read to me he would (　　) at best he could into some (　　).

B：True or False

[1]

1. The author's father wanted his boy to grow up to be a scientist.
2. The author and his father seldom played together.

[2]

1. The author always let his father set up the tiles.
2. The author's mother was pleased when she saw her son boy set the tiles up regularly.

[3]

1. The author's father wanted to let him know how interesting patterns were.
2. The author's father only told the son about the world after he entered elementary school.

[4]

1. The author's father used to read to him from the Encyclopaedia Britannica.
2. The author didn't remember about the content of the Encyclopaedia Britannica.

[5]

1. The author's father would read the Encyclopaedia Britannica without stopping.
2. The author's father always translated what he read to his son into some reality.

C：Choose the correct answer.

[1]

1. When the author was a little kid, he played with _____.
   a. a high chair　　b. a lot of little bathroom tiles
   c. dominoes
2. The author and his father played with bathroom tiles which _____.

a. his father brought from the bathroom
b. his father brought home
c. he asked his father to bring home

[2]

1. After a while, the author and his father_____.
a. stopped playing with tiles
b. still continued to play in the same way
c. began to play in a more complicated way

2. The author' s mother seemed to_____.
a. be happy to see her husband playing with him
b. feel sorry for him
c. feel irritated to see her husband playing

[3]

1. The author' s father wanted to tell him_____and how interesting they were.
a. what bathroom tiles were
b. how to play with bathroom tiles
c. what patterns were like

2. The author's father started to tell him about the world_____.
a. and how interesting it is
b. though his mother told him not to
c. though he didn' t want to learn

[4]

1. When the author was a small boy, his father_____.
a. often let him read the *Encyclopaedia Britanica*
b. used to read to him from the *Encyclopaedia Britanica*
c. used to tell him about *Tyrannosaurus rex*

2. The author's father read to his son_____ .
a. with the boy sitting next to him
b. with the boy sitting on his lap
c. and talked about the *Tyrannosaurus rex*

[5]

1. The author's father_____to let him understand realistically.
a. would often read repeatedly
b. would stop reading and explain
c. would draw pictures

2. The author's father would translate what they read in the *Encyclopaedia Britanica* into_____.
a. English　b. *Tyrannosaurus rex*　c. some reality

D：Answer in English.

[1]

1. When he was a little kid, what did the author and his father play with?
2. How did they play with the tiles?

[2]

1. What did the author and his father do after the author helped set the tiles up?
2. What did the author' s mother tell her husband?

[3]

What did the author's father want to show him?

[4]

1. What did the author have at home?
2. What did his father do with the *Britannica*?

[5]

What did the author's father do when they read the *Encyclopaedia Britannica*?

教科書（ELEMENT English Course Reading　啓林館）
Lesson 10 の例　配当時間4の内の1時間分のハンドアウト

Lesson 10 (1)　[1] ～ [4]

A：Fill in the blanks to complete the summary.

[1]

A Chinese student posed a question on how Chinese and (　　) look at the world. Chinese people think the world is a (　　) while Westerners a (　　). Chinese people look at things in the (　　) view, while Westerners try to (　　) on more noticeable things.

[2]

My student's comment and my interest in (　　) psychology launched me on a series of (　　) studies, the results showed the dramatic (　　) in the nature of (　　) processes between Asians and Westerners.

[3]

Which do you think should be (　　) with the cow, the (　　) or the grass?

[4]

A Chinese (　　) psychologist found through the experiment of showing pictures to children, that American children tend to group objects on the basis of (　　), while Chinese children (　　).

B : True or False

[1]

1. A brilliant student from China working with the author on psychology research said that he thinks of the world as a line while the author regards it as a circle.
2. The Chinese student said that Chinese people think that things are constantly changing, and that in the end they get back to the prior state.
3. According to the Chinese student, Chinese people can understand the part only after they have understood the whole.
4. The Chinese student said that Westerners also think about the whole first, and then they start thinking of the part.

[2]

1. If it had not been for his student's unexpected comment, the author might not have started this series of comparative studies.
2. The research showed the dramatic differences in the thinking process between Asians and Westerners.

[3] [4]

1. A Westerner would probably think that the chicken and the grass are associated.
2. The American children tended to group objects on the basis of relationships.
3. The Chinese children tended to group objects on the basis of categories.

C : Choose the correct answer.

[1]

1. A student from China pointed out thatr_____.
   a. the student thinks the world is a line, while the author thinks it a circle
   b. the way of thinking of both the student and the author is similar to each other
   c. the author thinks the world is a line, while the student thinks it a circle

2. According to the student, _____.
   a. Westerners prefer to look at the whole, and then try to understand the part
   b. Chinese people prefer to see the outline of things first, then to look at the details
   c. both Chinese and Westerners have a similar tendency in the way they understand things or situations

[2]

1. The author began a series of comparative studies, working with_____.
   a. students and colleagues at universities
   b. his Chinese student
   c. a cultural psychologist at the university

2. According to the author, the results of the comparative studies show that_____.
   a. there are clear similarities between Asians and Westerners in the nature of their thought processes
   b. there are some differences between the thinking process of Asians and that of Westerners, but most of the differences are not clear
   c. there are considerable differences between Asians and Westerners in the nature of their thought processes.

[3] [4]

1. Research conducted by a Chinese developmental psychologist showed that American children_____.
   a. tended to group objects based on categories
   b. preferred to group objects based on relationships
   c. tended to group objects at random
2. Research conducted by a Chinese developmental psychologist showed that Chinese children_____.
   a. tended to group objects based on categories
   b. preferred to group objects based on relationships
   c. tended to group objects at random

D : Answer in English.

[1]

1. According to a Chinese student, what is the difference between him and the author as to the way they look at the world?
2. What does the student say about the way Chinese people look at the world?
3. What did the author feel about the student's comment?

[2]

1. What launched the author on a new course of research?
2. What did the research show?

[3] [4]

1. Do Westerners think the chicken or the grass is more associated with the cow?
2. What tendency did American children show in the experiment?
3. What tendency did Chinese children show in the experiment?

上記のハンドアウト（1時間分）を用いて、生徒自身がリスニングで解答するのか、あるいは音を聞いた後に教科書を見ながら解答するかを選択させている。半数強がリスニングのみで取り組んでいる。

ここで、新しい取り組みを実施してみた。教師が教科書の理解を図った後に、生徒に、このレッスンのなかの興味深い箇所を中心に授業をさせる試みである。その生徒の選出は、このレッスンの内容に興味を持つであろう生徒を指名し、事前に打ち合わせを行った。その際、教科書のレッスンの原文を該当生徒に渡し、教科書に書かれていない箇所と関連する科目や分野で学んだ知識を教科書本文という骨に肉付けしていく内容、あるいは内容に関してのインタラクションを取り入れた授業スタイルを提案した。英語のみでは、当然できない高度な内容を伴うであろうことを鑑みて、英語には縛られない授業発想を行なって構わないことを付け加えた。

二人の生徒に授業を実際にさせた。両レッスンとも年間計画では4時間を配当しての指導であったので、授業者である林は、Les.9, Les.10とも3時間でリスニングを中心として、T－F，文の完成、サマリーの完成、Q＆Aで日本語を媒介とせず英語で内容理解を図った。本校の生徒の英語の習得レベルでは対応できる指導であると期待し実践にあたった。その学習後に、教科書本文の原典を読ませた。細部にこだわらず読み進めることで、教科書本文に書かれていた行間の内容を読み取ることを、この指導の目標とした。教科書本文と原典から得た知識を共有知識とした上で、生徒による授業を行なった。以下に記載した授業のアブストラクトは、授業を行なった生徒によるものである。

LESSON 9 の例

本課のねらい

・物理学者ファインマン博士の自伝を読んで「学び」を理解させる。
・ファインマン少年と父親のやりとりから本当の教育とは何かを考えさせる。

本文の原典

"What Do You Care What Other People Think?"（W.W Norton & Company,1988）の中の The Making of a Scientist.

高野佑磨の授業のアブストラクト（本人自筆）

（英語2 Lesson 10のサマリーを書いた生徒B）

9月28日　第6校時

学問をするにあたって重要な「姿勢」とは何であろうか。私はこの文章にその答えが書かれていると感じた。

まず、一つ目は" I learned very early the difference between the name of something and knowing something."という一文に現れている。「名前を知ること」と「本質を知ること」の違いの重要性は、今回の事例である鳥に関してだけではないし、科学は言うまでもなく、学問全般に言えることである。名前を知って満足するのではなくて、その先が大事なのである。

つぎに、" My father taught me to notice things." の一文に着目したいと思う。そして、これの他に" Why is that?" という短い一文にも重きを置きたいと思う。一つ目の文の、物事に気づくこと。これが重要なのは言うまでもない。私はさらに、「なぜ？」という疑問が必要だと思うのである。つまり、2つ目の「姿勢」というのは、物事に気づき、それに対しての疑問を抱くことである。学問の起源はここに有ると思う。

以上の2つの「姿勢」は文章中から読みとれるものである。これらのほかに、教科書と原典を比較することで気づけるものがある。原典では続きがあるけれど、教科書では、" It just happens I do physics better." という一文で終わっていることである。この一文で文章を終えることは、この一文を引き立てる効果が非常に大きかった。1つの分野にしぼられたのは「たまたま」であって、大前提としては、「全ての分野」に興味を持っているということである。確かに、日本史を学ぶことで新しい化学物質が発見されることはないであろうし、相対性理論を学ぶことで経済のしくみが分かることはないであろう。しかし、いろいろなことを学ぶことに意味はあるし、

その「姿勢」が大事なのである。

私は、これまで、「科学」ではなく「学問」という単語を用いてきた。この文章は「科学者の育て方」かもしれないが、それ以上のものを感じたからである。ファインマンが物理学者であるが故、「科学」以外の分野に言及がないのは仕方がないが、もしもこの文章にタイトルをつけるのならば、「科学」という分野にとどめる必要はなかったと思う。この文章は「科学者の育て方」ではなく、「学びの姿勢」について書かれているのだ。

そして最後に忘れてはならないことがある。もしもファインマンが、知的好奇心のない、父親の話に興味を持たないこどもであったらどうなっていたであろうか。文章に有るような２人の関係はおそらく成立しなかったであろう。一方通行の投げかけではなく、お互いの相互交流があったからこそ成り立っていたものである。お互いに協力し合い、高めあっていく態度、実はこの文章が最も伝えたかったのはそれなのかもしれない。

授業観察から

高野が教科書本文の数ヶ所に目を留めた箇所は、林も同感であった。高野により指名された生徒も、そのいくつかの箇所を指摘していた。それらの文から「学び」の本質に結びつけて行ったことに知的好奇心の高さを感じた。英語の文章を読み流してしまうのではなく、本文の本質をつく文と、教科書本文に表現されていたsome realityというキーワードに結びつけて行った。この本文の最後の文It just happens I do physics better. の後に省略されているものは何か、という私の授業での問にthan other sciencesと答えた生徒がいたが、高野は原典との比較でこの一文で終わらせている意味を説明していた。

高野は、この文章にThe Attitude Toward Learning. とタイトルをつけた。

ここに「学びのサイエンス」を感じさせた。また、ファインマンと父親のやりとり、そこには発信と受信という関係から再構築という知識の流れがあったからこそ、成果に結びついていえることを、「ダイアモンドを磨くのはダイアモンドである」という表現を用いて、学びには、質の高いインタラクションを必要とすることを授業の締めとした。

この教科書本文は数学、地学、生物、物理に関しての事例が載せられているが、Natural Scienceに留まることなく、もっと広い意味でのScienceを高野自身の授業から生徒たちは、感得していたと観察した。

LESSON 10 の例

本課のねらい

・アジア人と西洋人の思考差を実験を通して考察した説明文を読んで「違いの意味の多様性」を理解させる。
・アジア人と西洋人の間に思考差が存在するかどうかについて、科学的･比較文化的価値に立って考えさせる。

本文の原典

“The Geography of Though (Free Press, 2003) の中の” Introduction” および” Is the World Made Up of Nouns or Verbs?) By Richard Nisbett

山下　耕の授業アブストラクト　（本人自筆）

（英語２ Lesson 10 のサマーを書いた生徒 C）
10月９日　第4校時
「違い」と「ことば」の扱いかた
自他の「違い」をどうあつかうか？
書いてあること　は本当に正しいのか？　→　読書会を使って考えてみよう！

「東洋」と「西洋」の対比、これは幾度となく語られてきたテーマです。今回はモノの関連付けに関する考え方の違いを示す文章を読んできました。

では、彼我の「考え方の違い」を知ってそこからどうすればよいのか、あるいは、この文章の推論はほんとうに正しかったのか。今回の授業では本文の意味内容から離れてあえて二次的な疑問をぶつけてみたいと思います。また、それらを実践的に考える手法として読書会形式を用いて進めていきます。（残念ながら日本語での授業になります。）

まず、「違い」について「違い」を認め「違い」を喜びそして対話しましょう、というのが私の主張です。本文では“Asian people” と ” Westerners” で人間が分類（西洋的思考！）されたように、同じようにしていくらでも人間の分類の方法を作ることができます。同時にその分類数だけ「違い」が生じます。このどうしようもない「違い」の存在を知った上でどうしたらいいのでしょうか。私は「違い」による住み分けや疎外や無関心という方向の考えには共感できません。「違い」を承知した上での交流や対話のもたらすおもしろさを知っているからですし、そもそもこの先の世界で住み分けなど不可能だからです。

次に、本文の推論形式や批評的な読み方について。活字で書かれている＝真実であると信じ込んでいる私たちがいます。ではもしも本文の内容を疑うとしたらどこの部分でしょうか。千歩譲って教科書は信じてよいとして、社会人となった未来の私たちが接する文章はその主張・根拠・推論が正しいかどうかわかりません。そして往々にして間違いを含んでいます。また、批評的立場に立って読むことで文章の理解が深まることもあります。ことばの意味の意味を考えつつ文章を読んでいくべきです。

そして、これらを実践するために読書会を導入します。読書会の詳説は割愛しますが　1.読書会では意見をひとつにまとめきらず違いをそのまま残しておく。2.素材文の内容だけに限らず、関連ある（と思う）ことをなんでも話し合える。3.他人がする読み方、解釈をありありと知ることができ、みんなで読みを深められる。

以上のようなことを特筆しておきます。30分弱と短い時間になりますが、自発的で有意義な会の進行を望みます。

なお、今回の素材文として「新撰實用　青年演説討論五千題」（聚栄堂発行、明治42年）から「英語學校に於ての演説」「早婚の利害」「耶蘇教の我が国へ入るの利害」「金力と智力と何れか擇ぶか」などの文章を用いる予定です。この本には100年前の日本で行われた多数の演説が収録されています。当時の世相や思考方法、現代との違いが鮮明であること、慣れない文体であるためかえって注意深く読むことができること、現代文授業とのかかわり　等々のことを考えて題材を選びました。

教科書の内容主題からいささか離れる授業となりますが、多くの気付きを促す一時間を作りたいと思います。

授業観察から

山下の授業の「違い」を「時間軸」で捉えた視点に、新鮮さを見いだした生徒も多くいたと感じている。西洋人によるスピーチの出だしをいくつか紹介して、その論の構成の違いを焦点化した授業も考案していた。その内容は、以前、別の題材で扱った「主流のアメリカ人思考や発表パターンは直線に似ている」という論理パターンに対して、「日本人は、文脈に対する依存度がより高く、話題についてストレートに話すより、回りくどく話すことを重視する」という円状の論理パターンとの比較を考えていた。しかし、山下は、もう一つの授業案であった「時間軸」における日本での違いの授業を行った。「新撰實用　青年演説討論五千題」（聚栄堂発行、明治42年）から「英語學校に於ての演説」「耶蘇教の我が国へ入るの利害」「金力と智力と何れか擇ぶか」の3つの文章を用いて、グループごとの話し合いを主な授業の流れとして進めて行った。日本語の話し合いであるので、生徒たちは、それぞれの意見を交わしあっていた。英語で行うことも生徒たちの能力では、ある程度は可能であろうが、内容が英語運用能力内に限定されてしまうため、本質に迫ることはできないであろう。このような日本語での授業により、教科書本文で確認した「違い」を、単なる知識として捉えるのに留まらない思考の発展性が、そこには共有されていた。また、「共有知識」としての財産が、教科書本文とその原典であることの重要性を確認できた。ある一定の枠組みの中で話題を進めることにより、話題の出発点と方向性が守られた中で行われることが可能となる。この授業にも、英語の授業では深めることができない「気づき」と生徒たちの知識、そして「知的好奇心」に触れることができたと観察した。

授業後の記録（本人自筆）

授業を終えて

高野佑磨

授業をする前、50分間ほぼ話し続けるという方針にいささかの不安を感じていました。自分の話すことがおもしろいかどうか、人の興味を引けるかどうかわからなかったからです。

しかし、授業が終わってみると、意外にも、感動したとか、もっといろいろなことを学びたいと思ったなどと、ポジティブな感想を言ってくれた人が多く、やってよかったと思いました。

今回の授業において、自分の考えを人前で話すということ自体が貴重な経験であることは言うまでもありませんが、私はそれ以上のものを得ることができたと思います。普段の生活の中で、友達と「学ぶとはどういうことか」なんていう話題には絶対になりません。しかし、授業をした後にみんなから話を聞いていると、同じような考えを持っている人も少なからずいたようでした。こういう機会が与えられなければ、いささか堅苦しいと思われる内容の話はできないので、みんなと意見を交換できたことは本当によかったと思っています。「普段、英文は読んで終わってしまうけれど、今回はその内容について深く考えることができて、よかったし、それが楽しかった」というようなことも言われたので、授業をすることの目的も果たされたものだと思います。

最後に、授業が終わったあと、「ありがとう！」と声

をかけてくれる人もいました。感謝しなければならないのは私の方で、今回このような場を設けてくれた先生、その後でいろいろな話をしてくださった先生方、授業を協力的に受け、ねぎらいの言葉をかけてくれ、更には、私自身にも新たな「気づき」を与えてくれた友達には、本当に感謝しています。

授業を終えて

山下　耕

授業２日前ぐらいまで授業の内容が固まっていなかった。というのは、有意義な時間のために何をするべきかの迷いがあったからだ。そして「相手と共有したいこと」がなかなか決まらず「そもそも私は何を伝えたいんだろうか」と頭を悩ませているあたり、普段の学びが受身ばかりであることを痛感した。やはり魅了的な時間を他人に提供するというのは難しいものだ。だからこそ授業時間を私が進行したという経験そのものよりも、それの企画案出や準備での自問自答から得るものが大きかったと思う。結局たどり着いたのは自分の強みを生かすこと、読書会である。みんなの反応を予想しながら準備を進めた。

当日は生徒が予想以上の興味を示してくれて（みんなやさしい！）こちらも肩の力を抜いて進めることができた。教師ばかりが授業を作るのではなく、生徒と教師の相互作用で授業空間が作られていることを実感。今回の授業相手が１年半の付き合いのある仲間でなかったら、まったく違う場になっていただろう。授業は生き物だな。つまるところ、議論が盛況であってヒットしたなという実感が何よりうれしかった。興味の要因は、知的好奇心をそそる「本物」を用意したことではないか。

進め方の評価としては　班活動という常套手段を用いて生徒の自主性に任せながらも自分も班の会話に加わっていくことで、ほどよい距離感・影響を保つことができた。しかし、班編成の指示が不十分で人数差ができ不適当だったところもあった。前半のおはなしを削って後半の読書会を５分でも多くとればよかったかもしれない。ほんとうに時間が惜しまれる。

最後に、アンケートの中から印象深かった感想を挙げる。

・違いを受け入れることは大事だなと改めて感じました。
・自由に話し合うということで強い主張に無理にあわせる必要がなく、楽しめた。
・結論をひとつに決めなくてよい気楽さがよく、議論が盛り上がった。
・単に読んだら「そうなんだ」だけで終わるけれど、皆の意見を知って、違いを感じたし自分がいかに考えているかがわかった。だけど違いがあるから、だからどうなるのか、それがわからなくなった。
・日本史選択の人に時代背景を教えてもらいました。理系ですが楽しめました。

林先生、すばらしい機会を下さってありがとうございました。

時間を用意する先生側が大変だとは思いますが、このようなチャンスをぜひ後輩（次の３年生）にも与えてあげてください。きっと深い学びを得ると思います。

考察

３年間で、生徒の「英語運用能力」と「言語と文化」に対する関心を、どこまで引き上げることができるであろうか。そこに「日本語でなら表現できる知識と知的好奇心」を、英語という１教科の中で結びつけることができるであろうか。教科書の内容によっては、生徒の方が各科目で学習した日本語による豊かな知識と、そこから生まれる知的好奇心を持ち備えている。そこに、この３年間の英語Ⅰ・英語Ⅱ・英語 READING の指導の目標を設定した。２年生までで、教科書に記載されている内容を理解し、その要約を人に英語で伝え、さらに文字で表すことができる指導を心がけてきた。英語Ⅰでは、英語のかたまりを意識させた授業、英語Ⅱでは、自分の言葉と論の展開を課題づけた指導をパターン化した授業形態の中で行ってきた。３年生の英語 READING の授業においては、その延長線上にあるものは何であるのか、普通教育の中の英語教育のスタンスと、その指導目標はどこに置かれるのかを探った。ひとつの授業観とその目標が、「生徒の知的好奇心への揺さぶり」「共有知識の基で行う日本語でなら表現できるやりとり」の２点に焦点を当てた授業実践に踏み切った。特に、後者の「共有知識の基で」を授業者である林は大切にした上での実践である。

大学でも、あるテーマを英語で議論するとき、PRE-DISCUSSION は日本語で行い、その次に英語でのキーワードとキーフレーズの確認を自他ともに行なってから、英語による DISCUSSION に入っていく。この過程

はとても大切であると考える。我々にとっては、英語は生活言語でもなく学習言語でもない。方法として使える英語の語彙と表現が限られていれば、その中で行える英語による内容のレベルは、日本語で行なうレベルより数段劣るであろうものであろう。現在の日本の普通教育を行っている学校での英語教育は、これでいいとすべきであろうか。イマージョン教育では、どこまで英語で行うことが必要であろうか。また、英語で理解させ表現させる必要性はどこまであるのか、それは高校の英語教育の範疇でどこまで達成させればいいのであろうか。どのような場を与えれば、どの程度の語彙と表現を与えれば、また、どの程度の時間を保障すれば、英語で知的好奇心に見合った内容を表現できるようになるのであろうか。

日本語では、より数段上を占めるであろう知識が、英語という「ベール」のもと、表現できないもどかしさを感じ、その必要性と関心を抱かなくなってしまう生徒がいる。教科書に記載されているそれぞれの分野に関して、高い知的好奇心を持っている生徒もいるであろう。英語で書かれた文章を「読み流して」それでおしまいという受験期への対策になってしまっている生徒もいる。時期的には、それも必要である。しかし、「その先」、英語は、メッセージを伝えるひとつの言語でありうるという可能性を、生徒の意識の中に投げかけたいと思っている。普通教育の中での英語教育に「学びのサイエンス」を意識させた一実践である。

今後も“English is the dress of thought”を目指した授業を創造していきたい。

参考文献

What Do You Care What Other People Think?
(W.W. Norton & Company, 1988)
The Geography of Thought (Free Press, 2003)
科学的な外国語学習法　佐伯智義　講談社
教科書 ELEMENT English Series & TM　啓林館
英語授業は集中　中学英語「633システム」の試み
東京学芸大学出版会